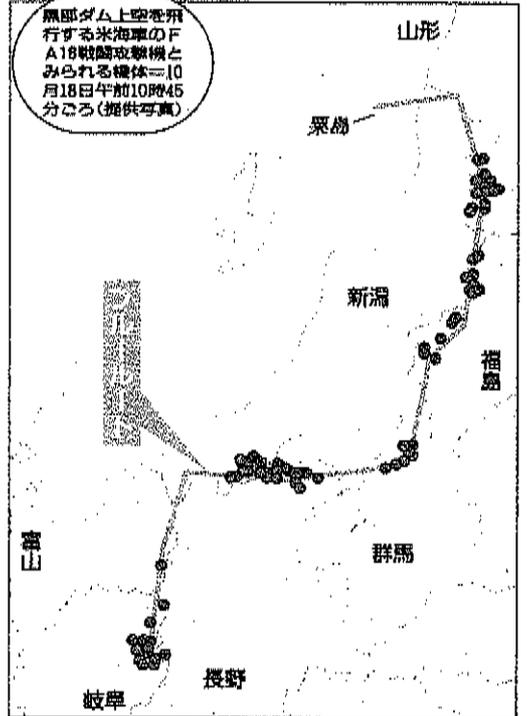


富山県立山町の黒部ダム上空を低空飛行する米軍機が10月中旬に相次いで目撃され、大きな問題となっています。同機は、米軍の低空飛行訓練ルート「ブルールート」を飛行した可能性があります。本紙の胸でブルールート周辺に、ドクターヘリと救急車のランデブーポイント(合流地点)が少なくとも87カ所(地図参照)あることが分かりました。(斎藤和紀)

# 米軍機 救急の障害



## 低空飛行「ブルールート」周辺 ドクターヘリ離着陸場87カ所

本紙は、ランデブーポイントの位置を、公表していない新機種の一部の自衛隊を疑って、それらとブルールート「周辺のランデブーポイント」は、岐阜県高山市13カ所、富山県新津野原町14カ所、群馬県みなかみ町8カ所、長野県飯山市と木島平村、米軍が所管する黒部ダムと金山町、西条町、山形県小国町が所となり、米軍はブルールートが事前で設定され

緊急放難に飛行するため、影響を受ける恐れのあるランデブーポイントは、これらより多いとみられます。

**異常接近も**  
救命効果をおけるために、災害時事故などの現場が近い場所では、救急車やドクターヘリが合流して、できるだけ早く治療を開始する必要があるとみられます。そのため、ランデブーポイントが事前で設定され

一方、米軍は自衛隊に対し、飛行訓練の乗組員も一切、通知しません。ランデブーポイント周辺を米軍機が低空飛行することで、事故や出動の遅れなどの被害が生じる恐れがあります。

米軍機がドクターヘリに異常接近した事例があります。2月に徳島県、松野町、市街地上空でドクターヘリの離陸直後、近づく低空飛行する米軍機を市民が撮影。2017年12月には高知県の防災

「ブルールート」下は山間部が多く、一刻を争う救急搬送のためにドクターヘリの役割が大きい地域です。出動回数をおよそ、群馬県は9000回(16年度)、群馬県は8000回(16年度)、岐阜県は3000回(16年度)、山形県は4000回(16年度)と推定されています。

米軍の低空飛行訓練をめぐっては、欧州の米同盟国でも大きな問題となっており、フランスは1990年代に提供区域外の訓練を行っていたため、適用するなどの拒絶要求を大幅に改定。その結果、現在では毎年米軍の低空飛行訓練はなくなっています。

**政府は否認**  
「ドクターヘリ」「医師をいち早く救急現場に連れていくヘリコプター」のこと。機内には初期治療に必要な医療機器や医薬品が装備・搭載されており、基地病院の敷地内等で待機して出動要請に応えます。現場に到着後は、傷病者に対しフライトドクターが速やかに治療を行い、適切な医療機関へ搬送します。(認定NPO法人・救急ヘリ病院ネットワークのホームページから)

自衛隊は、ドクターヘリと救急車のランデブーポイントが事前で設定され、緊急放難に飛行するため、影響を受ける恐れのあるランデブーポイントは、これらより多いとみられます。

米軍機がドクターヘリに異常接近した事例があります。2月に徳島県、松野町、市街地上空でドクターヘリの離陸直後、近づく低空飛行する米軍機を市民が撮影。2017年12月には高知県の防災

「ブルールート」下は山間部が多く、一刻を争う救急搬送のためにドクターヘリの役割が大きい地域です。出動回数をおよそ、群馬県は9000回(16年度)、群馬県は8000回(16年度)、岐阜県は3000回(16年度)、山形県は4000回(16年度)と推定されています。

米軍の低空飛行訓練をめぐっては、欧州の米同盟国でも大きな問題となっており、フランスは1990年代に提供区域外の訓練を行っていたため、適用するなどの拒絶要求を大幅に改定。その結果、現在では毎年米軍の低空飛行訓練はなくなっています。

「ドクターヘリ」「医師をいち早く救急現場に連れていくヘリコプター」のこと。機内には初期治療に必要な医療機器や医薬品が装備・搭載されており、基地病院の敷地内等で待機して出動要請に応えます。現場に到着後は、傷病者に対しフライトドクターが速やかに治療を行い、適切な医療機関へ搬送します。(認定NPO法人・救急ヘリ病院ネットワークのホームページから)